

9

山地放牧による肉用牛一貫経営

農事組合法人 日本海牧場（代表理事 山崎高雄氏）
（京都府京丹後市）【肉用牛繁殖肥育一貫経営】



- 低コスト、安心・安全を目指してシバ型草地で山地放牧
- 日本短角種と黒毛和種の和牛間交雑種を生産
- 「生産情報公表牛肉JAS」の認定牧場

1 地域の概要

京都府京丹後市は京都府北部、丹後半島に位置し、東西約35km、南北約30kmの広がりを持ち、面積は501.84km²である。沿岸部は山陰海岸国立公園、丹後天橋立大江山国定公園に指定され、内陸部には標高400～600mの山々が連なる。

気候は年間平均気温が14.6度、最高気温が35.1度、最低気温が-5度の日本海側気候となっている。

耕地面積3957haのうち、田が82.5%、畑が14.8%、樹園地が2.7%を占め、農業算出額76億円のうち米が46.0%、畜産が7.6%、野菜が23.7%となっている。

家畜の飼養頭数は、乳用牛483頭、肉用牛680頭（繁殖588頭、肥育92頭）、鶏7万6千羽となっている。京都市の肉用繁殖牛の41.2%を占める主産地となっている。



2 経営の概要

昭和56年から畜産経営を開始し、現在繁殖牛57頭（うち日本短角種30頭）、肥育牛60頭（日本短角種と黒毛和種との交雑種）の一貫経営で、子牛を含めると130頭を4人で管理（1名は浅茂川牧場）している。浅茂川牧場（約9ha）では妊娠牛16頭を分娩1～2カ月前まで放牧し、生野内牧場の牛舎に収牧している。生野内牧場（25a）では育成牛の放牧を行っている。

経営概要

繁殖牛
日本短角種 30頭
黒毛和種 27頭
肥育牛（交雑種） 60頭

放牧面積 9.3ha
飼料稲（委託） 2.4ha



【JAS認定授与式】



【放牧地：シバ草地】

3 取組の経緯

土木業を営んでいた先代の経営者が大の牛好きであり、昭和56年に「未利用資源を活用して低コスト生産」「安心・安全で安価な牛肉を地元で生産販売」などの理念を掲げて肉用牛経営を開始した。畜産に不慣れな土木部門の職員に牛の飼養管理をさせるなどにより、不安定な畜産経営状態が続いていたが、後

継者である現在の経営者に引き継がれたのを機に、平成14年度から生産コストの低減、受胎率の向上と子牛の損耗防止、環境問題の解決等を課題として関係機関による支援を強化し、放牧管理飼養技術の向上による受胎率向上と子牛損耗の低減、耕畜連携による稲発酵粗飼料確保による購入飼料費の低減、環境問題の解消等を実現した。

日本短角種と黒毛和種の和牛間交雑種は、肉質は黒毛和種よりやや劣るが、低コストで生産でき、成長が早く枝肉の歩留まりの良いことが特徴であり、平成19年10月、府内初めての「生産情報公表牛肉JAS規格」の認定牧場としての登録を受けている。

4 放牧の概要

放牧期間 5月～10月

放牧面積 9.3ha

放牧頭数 繁殖牛16頭 育成牛6頭

放牧形態 繁殖牛一昼夜放牧、育成牛一昼間放牧

(参考) 飼料作物等 稲発酵粗飼料(委託) 2.4ha 47.8t

5 放牧の特徴

- シバ型草地での日本短角種の放牧。
- 日本短角種を導入した理由は、山地放牧に適した牛を放牧し、未利用資源を活用した低コストで安全な牛肉の生産を目指したためである。



【放牧風景（日本短角種）】



【牛舎内景】

力強く大地を踏みしめ、傾斜のきつい斜面でもしっかりと立っている。

6 放牧の効果

- 妊娠牛の飼料給与、ボロ出し等の飼養管理の省力化、分娩後の早期発情回帰と受胎率向上など繁殖性の向上、育成牛の発育向上、購入飼料費の低減、環境問題の解消等。
- 耕作放棄地対策として地域への放牧牛貸し出しに取り組み、農地としての回復に貢献するなど、畜産に対する住民の理解醸成にも役割を果たしている。

執筆協力・問い合わせ先
京都府農林水産部畜産課経営係
TEL: 075-414-4981